☆待降節第4主日（12月20日）の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります

第一朗読（サムエル記下 7 章 1-5、8b-12、14a、16 節）

ダビデ王は王宮に住むようになり、主は周囲の敵をすべて退けて彼に安らぎをお与えになった。王は預言者ナタンに言った。
「見なさい。わたしはレバノン杉の家に住んでいるが、神の箱は天幕を張った中に置いたままだ。」
ナタンは王に言った。
「心にあることは何でも実行なさるとよいでしょう。主はあなたと共におられます。」
しかし、その夜、ナタンに臨んだ主の言葉は次のとおりであった。
「わたしの僕ダビデのもとに行って告げよ。主はこう言われる。あなたがわたしのために住むべき家を建てようというのか。わたしは牧場の羊の群れの後ろからあなたを取って、わたしの民イスラエルの指導者にした。あなたがどこに行こうとも、わたしは共にいて、あなたの行く手から敵をことごとく断ち、地上の大いなる者に並ぶ名声を与えよう。
わたしの民イスラエルには一つの所を定め、彼らをそこに植え付ける。民はそこに住み着いて、もはや、おののくことはなく、昔のように不正を行う者に圧迫されることもない。
わたしの民イスラエルの上に士師を立てたころからの敵をわたしがすべて退けて、あなたに安らぎを与える。主はあなたに告げる。主があなたのために家を興す。あなたが生涯を終え、先祖と共に眠るとき、あなたの身から出る子孫に跡を継がせ、その王国を揺るぎないものとする。わたしは彼の父となり、彼はわたしの子となる。あなたの家、あなたの王国は、あなたの行く手にとこしえに続き、あなたの王座はとこしえに堅く据えられる。」

第二朗読（使徒パウロのローマの教会への手紙 16章25～27節）

神は、わたしの福音すなわちイエス・キリストについての宣教によって、あなたがたを強めることがおできになります。この福音は、世々にわたって隠されていた、秘められた計画を啓示するものです。その計画は今や現されて、永遠の神の命令のままに、預言者たちの書き物を通して、信仰による従順に導くため、すべての異邦人に知られるようになりました。
この知恵ある唯一の神に、イエス・キリストを通して栄光が世々限りなくありますように、アーメン。

福音朗読（ルカよる福音書 1章 26～38節）

そのとき、天使ガブリエルは、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。ダビデ家のヨセフという人のいいなずけであるおとめのところに遣わされたのである。そのおとめの名はマリアといった。天使は、彼女のところに来て言った。
「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」
マリアはこの言葉に戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ。すると、天使は言った。「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。神である主は、彼に父ダビデの王座をくださる。彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない。」
マリアは天使に言った。「どうして、そのようなことがありえましょうか。わたしは男の人を知りませんのに。」天使は答えた。「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。あなたの親類のエリサベトも、年をとっているが、男の子を身ごもっている。不妊の女と言われていたのに、もう六か月になっている。神にできないことは何一つない。」マリアは言った。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」そこで、天使は去って行った。

朗読解説　―主任司祭より皆様へ―

　寒波がやってきましたね。コロナの感染者も東京はついに800人を超えました。大変な事態です。毎日多くの方が感染していますので、慣れっこになっているところがあるかもしれません。感染防止策を改めて徹底しましょう。
　今日は待降節第四主日です。降誕が間近になりましたので、聖書朗読もその雰囲気をよく現わしたものが読まれます。今日の集会祈願には①私たちがマリアに倣い、②愛と喜びをもって主を迎え入れ、③主とともに生きる者となりますように、とあります。マリア様が困難の伴うと予想される天使のメッセージを信仰をもって受け入れられたように、私たちも勇敢に信仰に生きる者となれるよう祈りましょう。

第一朗読（サムエル記下 7 章 1-5、8b-12、14a、16 節）

　ダビデ王が主のために「住むべき家」を建てようとしているところが読まれます。ダビデ王は木で作られた家に住んでいながら、神の箱は「天幕を張った中」に住んでおられるということで、すまない気持ちになったのでしょう。でも神はその気持ちに応えて、「あなたの王国は‥とこしえに続き、王座はとこしえに堅く据えられる」と言われます。ダビデ王は神から祝福されたものとなったのです。このところは、マリアが天使に告げられたところを思い出させます。「神に祝福され、恵まれた方」と。一方神はその一人子を天幕でもなく、神殿でもなく、岩の間に作られた家畜小屋に生まれさせます。この神の御業の鮮やかさ。誰が想像できたでしょうか。

第二朗読（使徒パウロのローマの教会への手紙 16章25～27節）

「秘められた計画」は今や明かされて、異邦人に知られるようになったのです。イスラエルの神から万民の神へと現わされるようになったのです。預言者たちの書き物はこの計画を推し進めていたのですが、今やその計画は明らかになったとパウロは述べています。この計画が次に読まれるルカによる福音です。

福音朗読（ルカよる福音書　1章 26～38節）

　ルカによる福音は福音書の冒頭に書かれているように、当時の出来事を順序だてて書き記すことにありました。ですから、イエスがどのような姿で現れたかをルカは順序だてて書き表しているのです。

　まず大天使ガブリエルが現れてマリアに告げます。ここはサムエル記で予言者ナタンがダビデに神の言葉を伝えたことと似ています（第一朗読参照）。「おめでとう、恵まれた方」「主があなたとともにおられます」。恵まれた方とはつまり、神がともにおられる方ということです。サムエル記ではダビデに対して「あなたがどこに行こうとも、私はともにいて・・」と言われます。そして、ダビデ王の「王国がとこしえに続き、その王座はとこしえに堅く建てられる」ように、マリアの子に対し「彼に父ダビデの王座を下さり、永遠に治め、支配は終わることがない」と約束なさるのです。このように、イエスの誕生はダビデ王への約束を一段と高めた意味を持っているのです。神の約束は違えられることがないのです。また、マリアが「男の人を知らないのに・・」と述べたのに対し、天使は「エリザベトが不妊の女と言われたのに，もう6か月になっている・・」と答え、「神にできないことは何一つない」と神への絶対的な信頼を置くようにマリアに告げるのです。エリザベトの夫ザカリアが天使の言葉を疑って口がきけなくなったのに対し、マリアは「お言葉通りにこの身になりますように」と答えて、神の申し出を受け入れられるのです。神はご自分の思いを人間に押し付けたりはしません。必ず人間の主体性を求められます。つまり返事です。神は私たちの願いにいつも耳をそばだてて聞いておられます。そして早い遅いはあるものの、私たちが望んだ以上の結果の答えを下さるのです。

　あと数日で降誕祭です。幼子イエスが私たちのところに来られます。温かい心の家でお迎えしましょう。降誕祭のミサに来られなくても幼子イエスは心に来てくださいます。温かくしてお過ごしください。

カトリック足立教会
主任司祭　野口重光